

平成23年度病害虫発生予報第2号(5月予報)

<お知らせ> 平成23年3月末をもって、北部駐在は閉所となりました。

今月のトピックス

奇形葉モザイク病(パパイヤ)

病原ウイルス : Papaya leaf distortion mosaic virus (PLDMV)
Papaya ringspot virus-P (PRSV-P)



生態と被害

茎の水浸症状

果実の奇形

葉に葉脈の透過、モザイク、奇形などの症状が現れる。葉柄や茎には、水浸状のしみ、果実には、輪紋や凹凸を伴う奇形症状が現れる。病徴によって、病原ウイルスを区別することは困難であるが、両ウイルスともPotyvirusグループに属し、700～800nmのひも状、汁液伝染し、アブラムシ類によって非永続的に伝搬される。種子伝染はしない。宿主範囲は、実験的にはパパイヤの外、ウリ科植物も認められるが、野外から分離されるのはパパイヤのみである。両ウイルスの区別は、血清学的診断、PCRなど遺伝子検定によって可能である。世界的には、パパイヤの生産地ではPRSV - Pの発生が多いが、沖縄では、PLDMVの発生が多い。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成23年4月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	23.8	26.4	21.5	233.8	149.5
宮古群島(宮古島)	24.6	27.4	22.5	209.3	147.6
八重山群島(石垣島)	25.5	28.1	23.5	221.4	159.2

5月の発生予報概要

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

作 物	病 害 虫 名	発 生 量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	メイチュウ類	-	並	やや多
キャベツ	コナガ	多	-	-
トマト	タバココナジラミ	並	-	-
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	並	-	-
	ヒラズハナアザミウマ	並	-	-
	ハダニ類	並	-	-

その他注意すべき病害虫等

本文中では (白丸)にて表記

作 物	病 害 虫 名	対 象 地 域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	メイチュウ類			
	サキシマカンシャクシコメツキ			
	アオドウガネ			
かんきつ	ミカンキジラミ			
マンゴー	チャノキイロアザミウマ			
	炭疽病			
	ハダニ類			
レタス	アブラムシ類			

作物	病虫害名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
とうがん(施設)	ミナミキイロアザミウマ・ハダニ類			
にがうり(施設)	うどんこ病・斑点病			
	ミナミキイロアザミウマ			
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)			

予報の見方

- (1) 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病虫害を中心に掲載しています。「やや少」以下の病虫害については通常掲載していません。
- (2) 「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成23年4月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	23.8	26.4	21.5	233.8	149.5

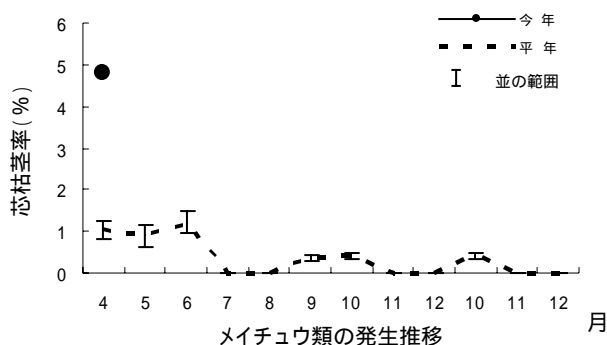
(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

5月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、芯枯茎率は4.8%(前年1.1%、平年1.0%)と平年に比べ高かった。
- b ふ化した幼虫は、苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- c 有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。



2 かんきつ(シークワーサー)

ミカンキジラミの防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、成虫密度は5.5頭(前月0.8頭)で、幼虫密度は0頭(前月5.7頭)であった。
- b 好適寄主のひとつであるゲッキツでの成虫密度は8.6頭(前月2.0頭)で、幼虫密度は11.0頭(前月23.9頭)であった。
- c 本種はカンキツグリーニング病の媒介虫であり、春は媒介時期であることから薬剤による防除を徹底する。
- d カンキツグリーニング病の拡大を防ぐため、本種の寄生したかんきつやゲッキツの移動を自粛する。

3 マンゴー

炭疽病の防除対策

- 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

灰色かび病の防除対策

- 4月中旬の調査の結果、一部園地において発生が確認された。
- 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- 通風採光をよくする。
- 早期発見・早期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- 4月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.1頭未満、平年0.5頭)であった。
- 着果期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭(前年0.2頭、平年0.2頭)であった。
- 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

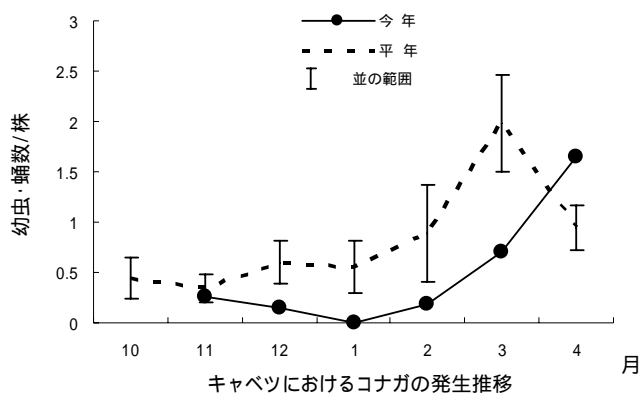
4 キャベツ

(1) コナガ

発生程度 : 多

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は1.6頭(前年1.8頭、平年0.9頭)と平年より多かった。
- 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並又は少ない確率が40%で、本種の発生が助長されやすいと考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- 圃場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。
- 薬剤散布は低密度時が効果的であるので、多発する前に散布を行う。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 レタス

アブラムシ類の防除対策

- 4月下旬の調査の結果、一部圃場でモモアカアブラムシの多発生が見られた。
- 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並又は少ない確率が40%で、発生が助長されやすいと考えられる。
- 多発すると排泄物に由来する汚れが生じ、品質の低下を招くことがある。
- 葉裏に多く寄生するので、葉裏をよく観察し早期防除に努める。

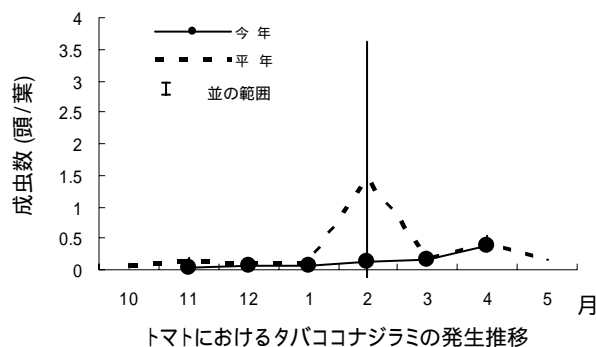
6 トマト

(1) タバココナジラミ

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、成虫数は0.38頭(平年0.41頭)と平年並だった。



< 防除上注意すべき事項 >

- ハウス内への飛来侵入防止に努め、黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいため、同系統薬剤の連用を避ける。

トマト黄化葉巻病(TYLCCV)の防除対策

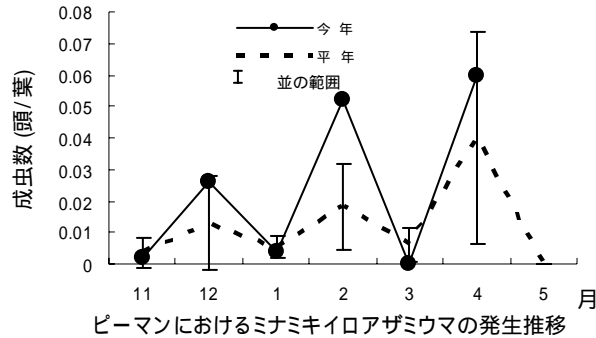
- 4月下旬の調査の結果、発病株率は0.1%(例年2.3%)、発生圃場率は43%であった。また、一部施設で発生が多かった。
- 本病はタバココナジラミによって媒介されるので、本虫の防除を徹底する。
- 施設内や周辺の野生生えトマトや雑草を徹底的に除去する。
- 栽培終了後はタバココナジラミを薬剤防除したうえでトマトを抜き取り、施設を1~2週間密閉して蒸し込み処理を行う。

7 ピーマン

(1) ミナキイロアザミウマ

発生程度 : 並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.06頭(平年0.04頭)と平年並だった。
- 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



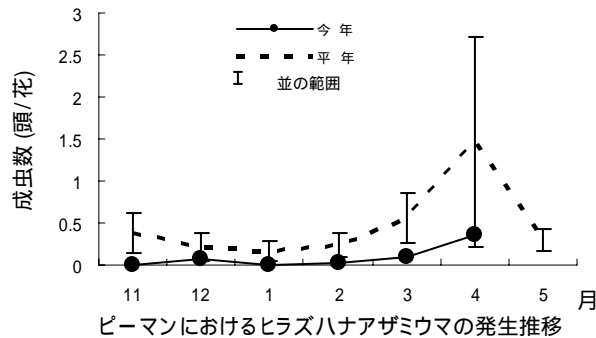
< 防除上注意すべき事項 >

- 本虫はウイルス病の媒介虫であるので、発生には注意する。
- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 栽培終了後に蒸しこみ処理を行い、施設外への分散を防止する。

(2) ヒラズハナアザミウマ

発生程度 : 並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、花当たり成虫数は0.4頭(平年1.5頭)と平年並だった。
- 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 多発すると防除が困難になるため、早期発見・早期防除に努める。

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成23年4月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	24.6	27.4	22.5	209.3	147.6

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

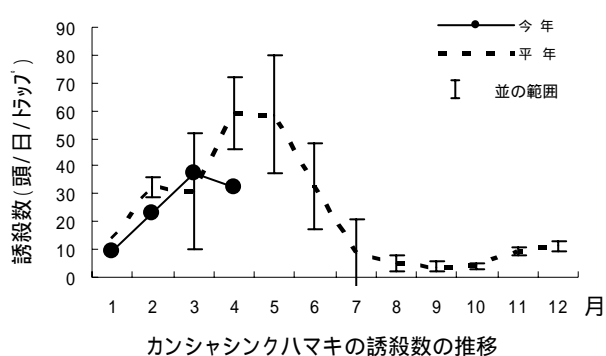
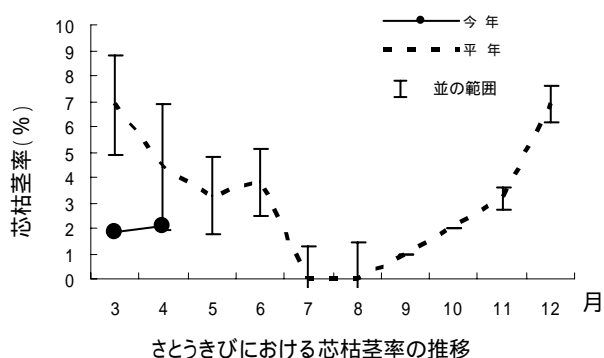
5月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : 並

- a 4月中旬の調査の結果、春植え・株出しほ場における芯枯茎率は2.1%(前年4.7%、平年4.3%)と平年よりやや少なかった。
- b 4月のカンシャシクハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺数は、32.7頭(前年68.6頭、平年58.9頭)と平年よりやや少なかった。
- c 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 葉裏や葉鞘でふ化した幼虫は株元近くへ移動し、芽や根帯から株の内部に食入して生長点を加害し、芯枯れを引き起こす。
- b 有効分げつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象とした薬剤防除を行う。
- c 培土時に土壌病害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し、施用する。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- a 4月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、0.2頭(前年0.4頭、平年0.5頭)と平年よりやや少なかった。
- b 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
- c 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。

アオドウガネの防除対策

- a 予察灯における本種成虫の捕獲数は例年5月から急増し、6～7月にピークを迎える。
- b 捕獲される成虫の約8割は雌で、かつその大半が交尾後であることが確認されている。
- c 宮古地区においては、4月下旬から全域に誘殺灯が設置されている。地域全体で次世代の密度低減を図るため、誘殺灯を適切に管理する。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、一部施設で炭疽病の発生が見られた。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭であった。
- b 着果期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は2.2頭(前年0.9頭)であった。
- b 5月は果実肥大期にあたるので、袋がけ前の防除を徹底する。

3 とうがん(施設)

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、ミナミキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.9頭)で、つる先当たりの成虫数は1.1頭(前年7.8頭)であった。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

4 にがうり(施設)

うどんこ病の防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、うどんこ病の発病葉率は36.5%(前年8.0%)、発病度は18.5(前年2.8)であった。
- b 被害葉は除去し、生育に応じて老葉などを摘葉して、透光通風をよくする。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期防除に努める。

平成23年度八重山群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

5月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	20	40
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成23年4月22日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	25.5	28.1	23.5	221.4	159.2

(沖縄气象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

5月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

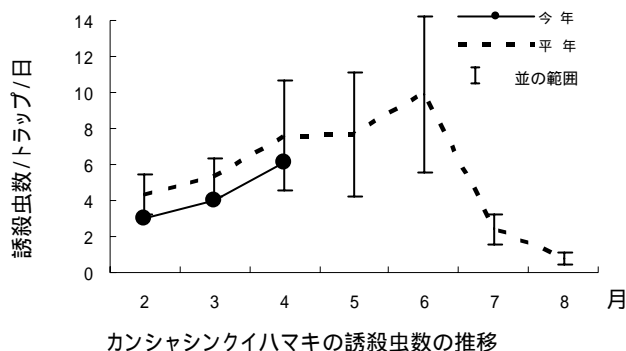
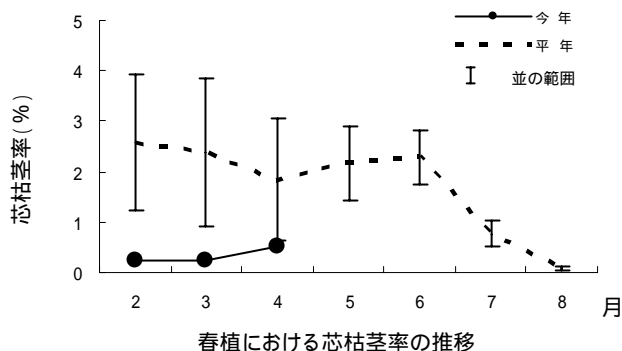
(1) メイチユウ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

a 4月下旬の調査の結果、新植春植圃場における芯枯茎率は0.5%(前年0.6%、平年1.8%)と平年よりやや低かった。また、一部夏植圃場において、メイチユウ類による芯枯れの多発生が見られた。

b 4月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は6.1頭(前年5.7頭、平年7.6頭)と平年並であった。



< 防除上注意すべき事項 >

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、成長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成23年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成23年4月28日付)。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- a 4月の合成性フェロモントラップ調査によるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.3頭(前年2.8頭、平年3.1頭)と平年より少なかった。
- b 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
- c 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、一部圃地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

灰色かび病の防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、一部圃地において発生が確認された。
- b 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 通風採光をよくする。
- d 早期発見・早期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(平年5.9頭)と平年よりやや少なかった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157